

【パリ＝竹内康雄】欧州

各国が、中国など新興国からの観光客を誘致しようと対策を拡充している。今や消費者として大きな経済力を持つ新興国の観光客に自国で消費してもらい、経済の活性化につなげる狙いだ。査証（ビザ）の発給手続きを簡素にしたり、観光しやすい環境づくりを進めたり知恵を絞っている。

5月、中国の複合企業が社員旅行でパリと南仏を訪れた。参加者は約6400人。宿泊費など支出は40億円以上。観光政策担当のファビウス外相が、同企業トップを外務省に招いて厚遇した。

2014年にフランスを訪れた観光客数は約840

欧州、中国人観光客誘う

ビザ発給、迅速化／ホテル朝食に白米

パリのアパレル店に並ぶ中国人観光客＝AP



一部の条件を満たす中国人に24時間以内に発給する制度を始めた。

に増やす目標を打ち出した。手続きの面では14年に中国人などに対し48時間以内にビザを発給する体制に変更。今後トルコやインドネシア、シンガポールにも広げる。17年にはネット上での手続きも認める計画だ。

他国も観光客取り込みに躍起だ。イタリアは14年、中国人向けには36時間以内にビザを発給すると表明した。従来は5日かかっていた。スペインも48時間以内

に短縮する方針だ。英国は

具体的政策では仏政府は8月、医療ツーリズム関連の強化策を公表。今後5年で20億ユーロ（約2700億円）の収入増が見込め、最大3万人の雇用増につながると試算した。このほかホテルの朝食メニューに白米を加えたり、百貨店の案内を中国語で放送したりするなど各国は観光しやすい環境づくりに知恵を絞る。

中国人の買い物では日本では家電などが中心だが、欧州では高級ブランド品や化粧品が対象だ。国連世界

観光機関（UNWTO）によると、中国人観光客の国外での支出は12年以降、世界で最も多い。14年は前年比27%増の1650億ユーロ（約19兆8千億円）と、2位の米国に500億ユーロ以上の差がある。国外を訪れる中国人は現在、1億2000万人で、20年には2億人に達するとの調査もある。

調査会社ベイン・アンド・カンパニーによると、世界の高級品市場の30%以上を中国人が占めるほか、国外での購入割合が半分を占めている。高級ブランド各社のお膝元である欧州では、中国人を誘致できれば「経済の起爆剤になる」（仏政府担当者）との期待は強い。